施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

令和7年度
とうきょうすくわくプログラム
『活動報告書』

とうきょう すくわく プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

●当資料内には，
規定されている以下の全ての項目が含まれております。
・活動のテーマ
・テーマの設定理由
・活動スケジュール
・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
・活動の内容
・活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり
・活動の様子が分かる写真（２枚以上）
・振り返りによって得た先生の気づき

認可保育所
多摩文化保育園
東京都八王子市千人町4-1-6
☎ 042-661-6045

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

もくじ

各種電子端末でご覧いただいている場合は，
以下の目次内の**ページ数「P＊＊」をクリック**して頂くと，
該当のページまで移動することができます。

■「とうきょうすくわプログラム」について――――P3

■『活動報告書』

◆テーマ：自然

年間を通して当園で行わている**季節ごとの自然の移り変わりを感じる保育**を，**「とうきょうすくわくプログラム」における「探究活動」の文脈**で捉え直し，
それぞれの具体的なテーマの立案および活動を行いました。

●具体的なテーマの詳細

・秋の自然の探究

テーマ1：どんぐりの探究――――――P4
テーマ2：落ち葉の探究 ――――――P9

・冬の自然の探究

テーマ1：冬の虫の探究――――――P14
テーマ2：冬の日差しの探究――――P19

・春の自然の探究

テーマ1：花(球根)の探究――――P24
テーマ2：春の草花の探究――――P29

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

「とうきょうすくわくプログラム」について

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

子どもの**探究心・好奇心**を触発することで、
子どものより**豊かな心の発達**を目指す、
東京都が推奨するプログラムです。

●当資料内の各テーマについての『活動報告書』には,
規定されている以下の全ての項目が含まれております。

・活動のテーマ
・テーマの設定理由
・活動スケジュール
・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
・活動の内容
・活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり
・活動の様子が分かる写真（２枚以上）
・振り返りによって得た先生の気づき

●『活動報告書』のフォーマットや,
上記の各項目の提示順序については凡例に従っております。

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

秋の自然の探究
テーマ1：どんぐりの探究

1.活動のテーマの設定理由

残暑も落ち着き，お散歩に出かけられる機会が増えたことで，子ども達が出先の秋の自然に興味を示す様になって来ました。その好奇心を更に深める目的で当テーマを設定いたしました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)10月中旬：秋の園外保育の機会等を利用した「どんぐり集め」

(2)10月下旬：どんぐりに関わる表現活動

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

担任制作の『どんぐり図鑑』，どんぐり集め用の袋，
絵の具，筆，クレヨン，画用紙

■環境

園外保育などの外出の機会，絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)10月中旬：園外保育等でのどんぐり集め

・例年，秋の園外保育で訪れる万葉公園には沢山のどんぐりが落ちています。どんぐり集めに自然に興味を示していた子ども達の姿をヒントにテーマを設定いたしました。

・園外保育の前には各クラスにてどんぐりに関するお話をしてから，担任が制作した『どんぐり図鑑』を手渡すなどして子ども達の興味を刺激する導入を行いました。

・園外保育当日には，『どんぐり図鑑』を片手に子ども達が様々な種類のどんぐりを集めました。数を多く集めるだけではなく，それぞれのどんぐりの特徴に注目しながら探究活動を行うことが出来ました。

(2)10月下旬：どんぐりに関わる表現活動

・それぞれのクラスで，これまでの探究の経験を思い出しながら次の表現活動を行いました。

・ひまわり組(年少クラス)では，絵の具と筆を使ってどんぐりを一筆描きすることに挑戦しました。

・ゆり組(年中クラス)では，絵の具と筆を使って描いたどんぐりにそれぞれの子どもがクレヨンで思い思いの装飾を施しました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)10月中旬：園外保育等でのどんぐり集め

『どんぐり図鑑』を片手に探究

・園外保育の前の期間に，各クラスの担任から子ども達に対して「いろいろな種類のどんぐりを探しに行こう！」という旨の導入を行いました。

・加えて，担任が制作した手のひらサイズの『どんぐり図鑑』を子ども達に配布し，皆でより楽しんでいろいろな種類のどんぐりが集められるように配慮しました。

4.探究活動の実践

公園での探究の様子

・園外保育当日には，同行していたさくら組(年長クラス)の園児や，保育士らと一緒に楽しそうにどんぐりを集める姿が見られました。

・さくら組から「こっちの方に沢山あるよ！」と教えてもらったり，保育者に「取れた！見て！」と報告したりしながら，周囲のメンバーの暖かい見守りのなかで子ども達は探究を楽しんでいました。

・ひまわり組(年少クラス)では，自発的ににどんぐりを探す子ども達の姿が多く見られました。お友達と見つけたものを見せあい「いっしょに探そう！」と声をかける姿が見られ，お友達との関わりの広がりが感じられました。

・ゆり組(年中クラス)では，事前に用意した『どんぐり図鑑』を見ながら色や形を手掛かりに分類するなかで，それぞれのどんぐりの細かい部分や違いに注目することが出来ました。

公園で集めたたどんぐり

・子ども達同士や，子ども達と保育者間で，公園に落ちていた落ち葉にもいろいろな形があることなどについても話しており，秋の自然全般についての興味関心の広がりが感じられました。

4.探究活動の実践

(2)10月下旬：どんぐりに関わる表現活動

絵の具と筆で描かれたどんぐり

・年少クラス(ひまわり組)では，一筆描きでどんぐりを表現しました。

・絵の具や筆の扱い方を教わりながら，沢山のどんぐりが落ちていた公園の様子を思い出しながら，それぞれの子ども達が画用紙いっぱいにどんぐりを描いていました。

・数や大きさ，濃淡などにそれぞれの個性があらわれていました。

クレヨンで思い思いの装飾を施す

・年中クラス(ゆり組)では，絵の具と筆でどんぐりを描き，その後にクレヨンでどんぐりの帽子や表情などを描き足しました。

・実物のどんぐりに似せようとして描く子どもや，自分の中のイメージを自由に表現しようとする子どもなど，表現のやり方にそれぞれの個性があらわれていました。

・お友達同士で声をかけあい，協力しながら表現活動を楽しんでいました。

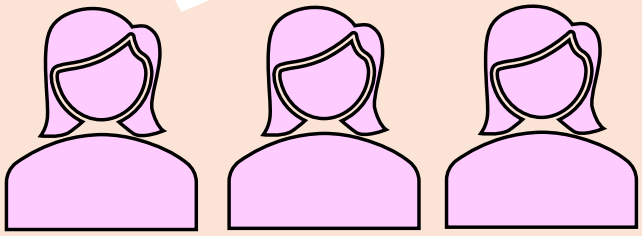
5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・園外保育等の野外活動においては，
探究を通して，観察力や言葉のやり取りが豊かになることを実感いたしました。

・見つけたどんぐりをお友達に手渡し，分け合う姿が随所に見られ，
思いやりの心が芽生え始めていることが感じられました。

・表現活動においては，探究の経験をアウトプットすることと並行して，
子ども達が筆の使い方，絵の具のつけ方，筆の洗い方を教わりました。
一通り道具の扱いに慣れた後には，のびのびと自由に絵を描く子ども達の姿が見られました。

・それぞれの作品には子ども達の個性がよく表れていました。
道具の扱い方にも慣れていくことで，より探究し，表現する喜びを
子ども達が感じられる様にしていきたいと思います。



施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

秋の自然の探究
テーマ2：落ち葉の探究

1.活動のテーマの設定理由

10月のどんぐりの探究で，子ども達が古い枯れ葉をかき分けてどんぐりを探していたことから，木の葉への興味の広がりが見受けられました。八王子の11月は，例年寒さと紅葉が深まり，様々な種類の落ち葉が見られる様になります。これらのことから，子ども達に落ち葉の探究を提案しました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)11月上旬：園庭での自由遊びやお散歩の機会に，落ち葉を使った見立て遊びを行うことで葉への親しみを深める。

(2)11月中旬：虫メガネ，電子顕微鏡，大画面(電子黒板)などを用いて，色々なやり方で落ち葉を細かく観察することで，興味関心をさらに焦点化する。

(3)11月下旬：探究活動の経験を振り返りながら，絵で表現してみる。

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

様々な落ち葉，虫メガネ，電子顕微鏡，電子黒板，画用紙，クレヨン，絵の具

■環境

お散歩などの外出の機会，絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)11月上旬：落ち葉への親しみを深める

・10月度の園外保育で，どんぐりだけではなく落ち葉に対しても興味を示す子どもの姿が見られたことから，その関心を広げる活動を行いました。

・具体的には，落ち葉が沢山落ちている公園までお散歩に出かけたり，落ち葉を使った見立て遊びを楽しんだりしました。

(2)11月中旬：落ち葉を細かく観察してみる

・拾ってきた落ち葉を「虫メガネ」「電子顕微鏡」「電子黒板」などを用いて，細かく観察してみました。

・肉眼では知覚できない落ち葉の新しい側面に出会い，興味関心が深まった様です。

(3)11月下旬：探究活動の経験を表現してみる

・10月度と同じ要領で，これまでの探究の経験を思い出しながら，表現活動を行いました。

・ひまわり組(年少クラス)では「落ち葉のフロッタージュ」，ゆり組(年中クラス)では「混色の技法を用いた落ち葉の描画」を行いました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)11月上旬：落ち葉への親しみを深める

思い思いの落ち葉を集めて楽しむ子ども達

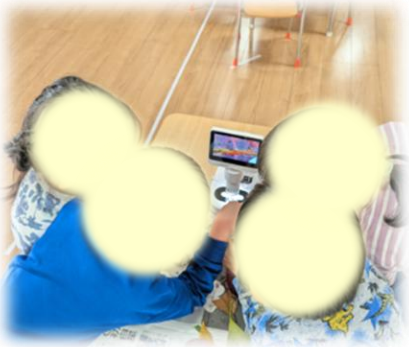
・子ども達の落ち葉への親しみを深めるための導入を行いました。

・お散歩などに行った際には，様々な種類の落ち葉に関心を示す姿がみられました。

・子ども達は保育者と落ち葉を用いてお化けの顔を作ってみたり，落ち葉を食べ物に見立てて，魚釣りごっこや焼き肉屋さんごっこをして楽しんでいました。

4.探究活動の実践

(2)11月中旬：落ち葉を細かく観察してみる



お友達と様々な方法で落ち葉を観察する子ども達

・各クラス合同で，「虫メガネ」「電子顕微鏡」「電子黒板」を用いた観察プログラムを行いました。

・次の順序で，4～5人1組で徐々に観察のやり方を細かくしながらプログラムを進めました。
まず，子ども達に肉眼で拾ってきた落ち葉を観察して貰いました。
次に，虫メガネを用いて肉眼での見え方と比較してみました。
最後に，電子顕微鏡を用いて更に詳細に観察を行いました。

・観察を細かくしていくなかで，
「何で葉っぱに穴が空いているんだろう？」「虫さんが食べたのかな？」「近くで見るときれいな色だね！」「線が入ってる！」などの新たな気付きがありました。

電子黒板で気付きを共有する子ども達

・プログラムの終わりに，電子黒板に電子顕微鏡の画面を投影して，それぞれのグループから「気が付いたこと」「皆に見てもらいところ」についての全体共有を行いました。

・葉の色に注目するグループや，葉の模様について注目するグループなどグループごとに注目する部分が異なっており，いろいろな興味の焦点化のやり方があることをお友達同士で学び合いました。

4.探究活動の実践

(3)11月下旬：探究活動の経験を表現してみる

フロッタージュへの挑戦

- ひまわり組(年少クラス)では，本物の落ち葉を紙の下に敷き，その上からクレヨンをあて，落ち葉の形や葉脈の模様を浮き上がらせるフロッタージュに挑戦してみました。
- 事前に細かく観察するなかで気になっていた葉のボコボコした部分(葉脈)に更に関心が集まる様子が見られました。

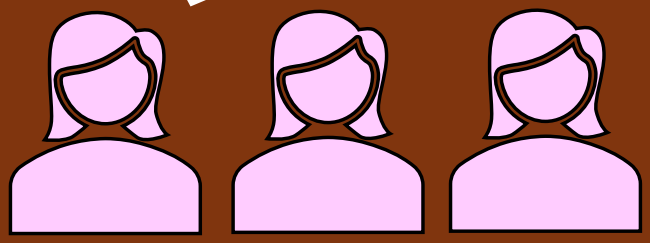
混色の技法へのチャレンジ

- ゆり組(年中クラス)では，クレヨンを使って葉の形と主要な葉脈を描いた後に，その上から様々な色の絵の具を塗ることで混色の技法にチャレンジしました。
- 虫メガネや電子顕微鏡，電子黒板などを用いて細かく葉の色を観察するなかで気が付いた，様々な色が複雑に混じり合う落ち葉の美しい発色を表現することが出来ました。

5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・観察/探究を経た後の表現活動において，
ひまわり組(年少クラス)については，
フロッタージュを行う際にクレヨンの筆圧の個人差もあり，
葉脈の模様がなかなか浮かび上がってこない
園児も見受けられましたが，保育者の援助を受けたり，
上手く出来ているお友達の様子を観察したりしながら
一生懸命に取り組む姿が見られました。

・ゆり組(年中クラス)については，黄色・赤色・緑色の
絵の具が画用紙上で混色していく様子を，実際の紅葉における
葉の色の変化になぞらえて理解しようと試みる姿勢が感じられました。
また，筆の扱い方についても上達が見られました。
当プログラム全体を通じて，落ち葉に対する感受性が高められる経験
になったと思います。



施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

冬の自然の探究
テーマ1：冬の虫の探究

1.活動のテーマの設定理由

11月の落ち葉の探究のなかで，落ち葉に隠れた虫の姿に関心を示す子どもたちの姿がありました。その関心を広げ，暖かい季節とは異なった虫たちのあり方について色々な方法で考えてみることにしました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)12月上旬：園庭やお散歩先の公園での自由遊びのなかで虫たちを探してみる。

(2)12月中旬：探してきた虫たちを虫かごに入れて，各保育室で飼育してみる。

(3)12月下旬：虫と過ごして感じたことや考えたことを絵で表現してみる。

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

冬の虫たち，虫かご，虫あみ，虫メガネ，
画用紙，クレヨン，鉛筆，のり

■環境

園庭での外遊びの機会，お散歩などの外出の機会，
絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)12月上旬：虫を探す

・園庭での外遊びや，公園でのお散歩の機会に，寒さで落ち葉の下や土の中に隠れている虫を探してみる活動を行いました。

・ダンゴムシを中心に，色々な虫に出会うことが出来ました。

(2)12月中旬：虫を飼育してみる

・探してきた虫たちを虫かごに入れて，各保育室で観察しながら大切に飼育しました。

・小さな命を大切に扱うなかで，命の尊さについても学ぶ機会になった様です。

(3)12月下旬：探究活動の経験を表現してみる

・ひまわり組(年少クラス)では，改めて虫たちを虫メガネで観察しながらその様子を絵に落とし込みました。

・ゆり組(年中クラス)では，落ち葉や石の下に隠れる自然の中の虫たちの姿を想像しながら表現活動を行いました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)12月上旬：虫を探す

・11月の落ち葉の探究活動のなかで，虫たちの姿や痕跡に関心を示した子ども達の興味関心を深めるため，「冬になると虫さんはどこに行ってしまうのかな？」という主旨の導入を行いました。

・外遊びやお散歩の際に「ダンゴムシを探したい！」と希望する子ども達の姿が次第にみられるようになり，虫かご等を用いた虫取りが行われました。

・ダンゴムシの他にも，ワラジムシや，その他の虫の幼虫など様々な冬の寒さを落ち葉や土の下で過ごす虫たちが見つかりました。

4.探究活動の実践

(2)12月中旬：虫を飼育する

用意した「落ち葉の掛け布団」

・探してきた虫たち(ダンゴムシ)を保育室で飼育するにあたり，様々な工夫を凝らしました。

・例えば，虫たちに暖かく過ごしてもらうために，「落ち葉の掛け布団」を用意して，虫たちが普段過ごしている環境に近付ける努力をしました。

それぞれのダンゴムシにつけられた名前

・「ごろごろちゃん」「こっくん」など，子ども達がダンゴムシに名前をつけ，親しみを持って飼育する様子が見受けられました。

・子ども達はダンゴムシを直接観察したり，隠れているダンゴムシがどのように過ごしているのかを想像し，命の大切さについても考えながら大切に飼育しました。

ダンゴムシの他に飼育した虫たち

・ゆり組(年中クラス)では，ダンゴムシの他にもワラジムシや他の虫の幼虫の飼育にも挑戦しました。

4.探究活動の実践

(3)12月下旬：探究活動の経験を表現してみる

虫かごから取り出したダンゴムシを観察し，描く子ども達

・ひまわり組(年少クラス)では，虫かごからダンゴムシたちを取り出して，虫メガネで改めて観察してみてから，その様子を絵に落とし込みました。

・虫メガネ形の画用紙にクレヨンで色々なダンゴムシの姿を描いた後に，鉛筆を使って触覚や脚，身体の模様を描き足しました。

落ち葉や石の下の冬の虫たちを想像しながら描く子ども達

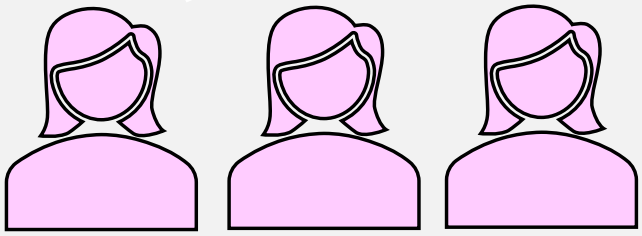
・ゆり組(年中クラス)では，落ち葉や石の下に隠れる虫たちの姿を思い浮かべながら，絵で表現しました。

・観察の経験に忠実に虫たちの姿を描く子どもや，親しみを込めて虫たちの横に自分やお友達の姿を描く子どもなど，それぞれが個性を発揮して表現活動を楽しんでいる様子でした。

5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・ひまわり組(年少クラス)については，
普段の外遊びで自然の中で虫たちに触れることがありましたが，
名前をつけて飼育を行うことが，自分たちで探した特定の虫(ダンゴムシ)への特別な親しみに繋がった様です。その後の表現活動では，
飼育したダンゴムシたちを虫メガネで興味深くじっくりと観察してから，
目・脚・触覚を細やかに描写する子ども達の様子が感じられました。

・ゆり組(年中クラス)については，ダンゴムシを始めとした様々な虫たちを飼育し，それらに実際に触れる中で，図鑑などを用いて更に興味関心を広げようとする様子が見られました。
表現活動においては，「脚は何本描けばいいのかな？」
「(虫たちは普段)どんな所にいるのかな？」など子ども達同士で
表現のやり方を相談し合い，協力することを楽しみながら
絵を完成させることが出来ました。



施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

冬の自然の探究
テーマ2：冬の日差しの探究

1.活動のテーマの設定理由

12月度の活動では，冬の寒さを土の中でしのぐ虫たちについて探究しました。冬は生き物が隠れるほど寒い季節ですが，空からは暖かい日差しが確かに降り注いでいます。冬の暖かな日差しを感じて行くなかで，子ども達が示した光と影に対する関心を広げる試みを行いました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)12月上旬～中旬：外遊びの最中や窓辺でくつろぐなかで冬の日差しに対する親しみを深める。

(2)12月下旬　　：日差しに注意を焦点化するなかで感じたことを作品やレクで表現してみる。

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

プロジェクタ，色付きのセロハン，ビニール袋，
色付きの画用紙，折り紙，クレヨン，のり

■環境

園庭での外遊びの機会，お散歩などの外出の機会，
絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)1月上旬～中旬：冬の日差しに対する親しみを深める

・年末年始のお休み明けの子ども達の様子をみながら，園庭やお散歩に出かけ，冬の日差しを感じられる機会を増やしていきました。

・担任が提案する遊びを通じて，日差しがつくる影にも興味を感じてもらえる様に工夫しました。

(2)1月下旬：探究活動の経験を表現してみる

・ひまわり組(年少クラス)では，身体を動かしながら，光と影についての探究を更に深めました。

・ゆり組(年中クラス)では子ども自身と，子ども自身の影をテーマにしたお制作を行い，探究活動を振り返りました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)1月上旬～中旬：冬の日差しに対する親しみを深める

・外遊びの機会に，日差しや影を子ども達が意識できる様な遊びを行いました。

・なかでも，子ども達が特に関心を示したのは「かげふみ遊び」でした。ルールを覚えながら楽しむなかで，影ができる仕組みについての理解も深まっていきました。

・ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)の子ども達が一緒に遊び，気づき得るなかで，冬の日差しというきっかけから，光と影というより抽象的なテーマに興味を広げていきました。

4.探究活動の実践

(2)1月下旬：探究活動の経験を表現してみる

プロジェクタで作られた影で遊ぶ子ども達

・ひまわり組(年少クラス)では，後日暗めの部屋でプロジェクタを用いて，影がどのようにつくられるのか？について，より丁寧に観察/探究してみました。

・日差しよりもくっきりとした輪郭の自分の影が，大きく・小さくなったり，動いたりする様子を「楽しい！」とお友達同士で喜び合うなかで，より光と影についての理解や興味が深まった様です。

冬の日差しにセロハンをかざして遊ぶ様子

・プロジェクタの光源を用いて遊んだ後は，窓辺から降り注ぐ冬の日差しにセロハンをかざして，光に色をつけてみました。

・「きれい！」なセロハン越しの色とりどりな光を組み合わせて楽しむなかで，プロジェクタの光源(人工の光源)には無い自然光の暖かさに改めて気が付くことが出来た様子でした。

4.探究活動の実践

(2)1月下旬：探究活動の経験を表現してみる

折り紙で自分の影を形作る様子

・ゆり組(年中クラス)では，制作と描画で探究の活動の経験を表現してみました。

・まず，色画用紙に黒い折り紙を人型に貼り付けて，自分の好きなポーズを表現してみました。

影の形に対応する自分の姿を想像して描く

・次に，そのポーズに対応した自分の姿をクレヨンで描いてみました。どのように影が出来るのかを思い出しながら，ぴったりと影の形に合わさる様に描くことが大きなチャレンジでした。

・制作での影のポーズから，お絵描きでの髪型や服装までに至る子ども達それぞれのこだわりから，それぞれが経験を丁寧に思い出し，味わっている様子が伝わってきました。

5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・活動を通して，子ども達が自分の影の形を使って，
身体のそれぞれの部位が大きくなったり，小さくなったりすることを
楽しみながら，影の動きや仕組みを理解していた様に感じられました。

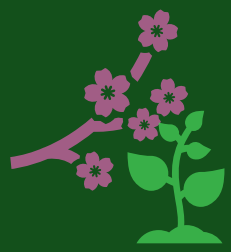
・ひまわり組(年少クラス)では，セロハンを用いた遊びのなかで，
子ども達同士で「2つの色があるよ！」「(セロハンを)上にあげると(影が)伸びるよ！」など，気付きを共有し合いながら探究活動を進める姿が見られました。

・ゆり組(年中クラス)の制作活動では，影と自身の姿を細かく対応させる子ども達の姿から，彼ら・彼女らが日頃から影についてよく考えながら生活していることに保育士が改めて気づかされる場面がありました。

・お友達同士で協力する局面と個人で集中する場面の双方が見られ，
メリハリのある探究活動になりました。

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

春の自然の探究
テーマ1：花(球根)の探究



1.活動のテーマの設定理由

1月度の活動では冬の日差しの暖かさを感じました。2月に入り，寒い日が続くなか，ぽつぽつと春らしい日が感じられる様になってきました。春に向けて高まる期待を胸に，ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)の各クラス室で，ヒヤシンスの球根を育ててみることにしました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)2月上旬：各クラスでヒヤシンスの球根を育て，観察してみる。

(2)2月中旬：お散歩でヒヤシンスと似た植物を探し，観察してみる。

(3)2月下旬：ヒヤシンスを育てた経験を絵画で表現してみる。

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

ヒヤシンスの球根，花瓶，液体肥料，
画用紙，絵の具，クレヨン

■環境

園庭での外遊びの機会，お散歩などの外出の機会，
絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)各クラスでヒヤシンスの球根を育て，観察してみる。

・ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)それぞれの教室で，クラスごとに異なる色のヒヤシンスの球根を育てました。

・担任からの問いかけをもとに，想像を膨らませながら観察/探究活動を行いました。

(2)2月中旬：お散歩でヒヤシンスと似た植物を探し，観察してみる。

・公園までお散歩に出かけた際に，ヒヤシンスのような球根から育つ花々(ヒヤシンスの仲間)を探し，観察してみました。

・園内で育てているヒヤシンスがどのような花を咲かせるかについてより関心が高まった様です。

(3)2月下旬：ヒヤシンスを育てた経験を絵画で表現してみる。

・ひまわり組(年少クラス)では，フィンガーペインティングで満開となったヒヤシンスの花の様子を表現しました。

・ゆり組(年中クラス)では，絵の具と筆を使って，ヒヤシンスの花全体を丁寧に描きました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)各クラスでヒヤシンスの球根を育て，観察してみる。

葉が出始めた頃の球根

・それぞれのクラスで，「ヒヤシンス」という花の名前や，その特徴については伝えずに，「これ(球根)がどのように成長するかな？」「どんな色のお花が咲くかな？」という主旨の問いかけを保育士から行い，子ども達の好奇心を刺激しました。

・子ども達は「タマネギみたい！」「食べ物ができるのかな？」などの感想をお友達や保育士に共有しながら，探究を始めました。

・ひまわり/ゆり組以外の，他のクラスでも一緒に球根を育ててみました。

4.探究活動の実践

(2)2月中旬：お散歩でヒヤシンスと似た植物を探し，観察してみる。

・それぞれのクラスで花が咲いている箇所がある公園までお散歩に出かけました。

・ムスカリなど，ヒヤシンスと似たような構造の植物が見つかり，子ども達はクラスで育てている球根がどのような花を咲かせるのか期待を膨らませました。

(3)2月下旬：ヒヤシンスを育てた経験を絵画で表現してみる。

園内全クラスで育てた色とりどりのヒヤシンス

クレヨン/フィンガーペインティングでヒヤシンスが満開の様子を表現する子ども達

・ひまわり組(年少クラス)では，ピンク色とむらさき色の花を咲かせたヒヤシンスから，数個の花を取り外し，その一つ一つを観察しながら丁寧に描いてみました。

・まず，クレヨンを使って，花の構造や，基本的な花の描き方について意識しながら表現活動をを行いました。「花びらが6枚あったよ！」「少し黒いのもついてる！」などの声から，集中して取り組んでいる様子が伝わってきました。

・次に，今度は絵の具と指を使って，周りに沢山の花を描いてみました。本物ヒヤシンスを引きの目線で眺めた時のような，にぎやかで美しい作品が出来上がりました。

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

4.探究活動の実践

クレヨンと絵の具/筆を使ってヒヤシンス全体を描く子ども達

- ゆり組(年中クラス)では，クレヨンで球根や茎，葉を描いてから，そこに絵の具で花を描き足しました。
- 「球根は紫色だったんだね，，」など，全体をあらためて眺めてみることで気が付くことがあった様です。
- 黙々と集中して花々を描く様子からは，これまでの活動のなかで身に着けた絵の具の筆の扱いについての自信が感じられました。

5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・年少クラス・年中クラスそれぞれでヒヤシンスの球根を育てていくなかで，
「もうすぐ花が咲きそう！」「花の色は紫かな，，？」
「今日はあまり咲いていないね，，」など，
日々の細かなヒヤシンスの成長の変化について
注目する子ども達の姿が見られました。

・自らのクラスで球根を育てることで，それぞれのヒヤシンスに対する
子ども達の特別な思いが芽生えたことが，子ども達が丁寧に観察し，
わずかな変化に気が付く姿勢に繋がった様に思います。

・制作活動のなかでは更にじっくりと観察を行いました。
「(花びらの)ここ(の部分)は少し黒い，，？」など，
肉眼で把握できるギリギリのところまで焦点化して
観察・表現を楽しむ子どもの姿も見られました。

施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

春の自然の探究
テーマ2：春の草花の探究

1.活動のテーマの設定理由

2月度の活動ではヒヤシンスの観察を行い，様々な植物の花が開く春に向けて子ども達は気持ちを高ぶらせました。いよいよ訪れた暖かな陽気を感じながら，屋外で見られる春の草花についての探究活動を行いました。

2.活動スケジュール

■活動の対象

ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)

■スケジュール

(1)3月上旬～中旬：各クラスで屋外で春の自然を感じる

(2)3月下旬　　：探究活動で感じたことを絵画で表現してみる

3.活動のために準備した素材や道具，環境の設定

■道具

画用紙，絵の具，筆，クレヨン

■環境

園庭での外遊びの機会，お散歩などの外出の機会，
絵画・アート教室の機会

4.探究活動の実践

(ア)活動の内容

(1)各クラスで屋外で春の自然を感じる

・ひまわり組(年少クラス)・ゆり組(年中クラス)ともに，
暖かな日差しが降り注ぐ日をねらってお散歩に出かけました。

・花を咲かせた種々の植物から春の気配が感じられました。

(2)探究活動で感じたことを絵画で表現してみる

・ひまわり組(年少クラス)では，クレヨンと絵の具を使って
ムスカリの花を描いてみました。

・ゆり組(年中クラス)では，園庭の桜(ソメイヨシノ)が
開花した様子を想像して描くことに挑戦しました。

(イ)活動中の子どもの姿・声，子ども同士や保育者との関わり

(1)各クラスで屋外で春の自然を感じる。

・お散歩や園庭遊びの際に春の自然が感じられる様に配慮しました。

・各クラス合同で，少し遠くの浅川の河川敷まで
お出かけした際には，河津桜やムスカリ，水仙など
様々な春の花々に出会うことができました。

・特に，河津桜に注目があつまり，木の下で花びら拾いを楽しみました。

・ソメイヨシノの花はまだつぼみの状態でしたが，
その様子も観察してみました。

・お散歩の帰りには子ども達から「お腹が空いた，，」という声が
聞こえてくるほど，花々を探しながらの遊びが充実した様子でした。

(2)探究活動で感じたことを絵画で表現してみる

観察のために個別に手配したムスカリの花

4.探究活動の実践

クレヨンでムスカリの茎，フィンガーペインティングで花を描く子ども達

・ひまわり組(年少クラス)では，ムスカリの花を描きました。

・2月度の活動でヒヤシンスを描いた際は，茎から取り外した花だけを描きましたが，今回の活動ではムスカリの花全体を描くことに挑戦してみました。

・実物のムスカリの花をじっくり見ながら，まずクレヨンで茎を描きました。

・次に，フィンガーペインティングで茎に花を描き足しました。2月度とは異なり，引きの目線でムスカリの全体を注意深く観察しながら，集中して取り組む子ども達の姿がありました。

・完成した絵をお友達同士でつなぎ合わせ，「お花畑みたい！」「きれい！」と喜ぶ様子からは，令和7年度のすくわくプログラムを経た豊かな心の成長が感じられました。

4.探究活動の実践

クレヨンで園庭の桜(ソメイヨシノ)の幹と枝，絵の具と筆でその桜が開花した様子を想像しながら描く子ども達

・ゆり組(年中クラス)では，
お散歩で観察した満開の河津桜を思い出しつつ，
まだ咲いてない園庭の桜の木(ソメイヨシノ)が
満開になった様子を想像して，絵画で表現しました。

・保育室の窓越しに園庭の桜の木を観察しながら，
まず，クレヨンで桜の木の幹と枝を丁寧に描きました。

・次に，木の枝の部分にピンク色の絵の具で満開の桜を想像しながら花を描きました。筆を慎重に扱うことで，
細かなドットを描くことが出来ました。

絵の具の筆を洗う子ども達

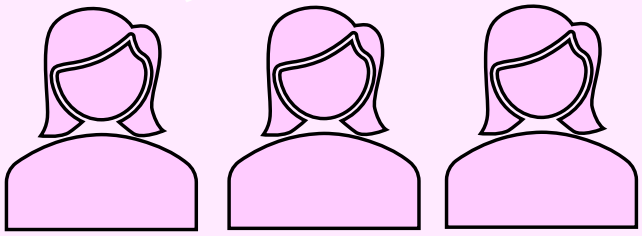
・絵の具や筆の片付けの際の
手馴れた様子から，
令和7年度のすくわくプログラム
を通して，
日常のなかでの探究や表現活動
が子ども達にとって
より身近なものになったこと
が感じられました。

5.振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

・ひまわり組(年少クラス)では，
フィンガーペインティングの活動のなかで，子ども達が積極的かつ自発的に色の調節を行う姿が見られました。
これまでの活動を経て，色という表現のツールを子ども達が上手く使いこなせる様になりつつあることが感じられました。

・ムスカリの本来の色に近付けるために細かく色彩を調節する姿からは「真剣に観察した結果を絵画での表現に繋げたい」という子ども達のモチベーションが感じられました。
クレヨンで茎を描いた後には，
「どこからお花が出ているのかな？」「こっちだよ！」
と子ども達同士で協力しながら表現活動を楽しみました。

・年中クラスではお散歩のなかで見た河津桜の花を思い出しながら，まだ咲いていない園庭の桜の花が咲いた様子を上手に想像することが出来ました。



施設番号　：66-0270
施設名　　：多摩文化保育園
施設所在地：東京都八王子市

とうきょう
すくわく
プログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

多摩文化保育園
TAMABUN

●住所　　：東京都八王子市千人町4-1-6
●お電話番号：042-661-6045
●FAX番号　：042-661-6086
●メール　　：右記HP上の「✉お問合せ」より
ご用件をご入力・送信ください

ホームページはこちらから
http://www.tama-bunkahoikuen.ed.jp/